

理不尽な社会のスタンダードを変える

法曹とジャーナリズムの連携

文教大学教授の 星野晴彦さん

今回の講義をお聞きして、まずは果敢に勝訴に向けて弁護なされた弁護士さんに心より敬意を表したいと思います。

この正義を信じて戦う姿は本当に素晴らしいと感じます。そしてまたその正義を報道するジャーナリズムも素晴らしいと思いました。

さて、それを踏まえたうえで今回の事案の不合理性は何かと考えてみました。

「認知症の方を拘束することの理不尽さ」

「JRの非人間的な姿勢」

「裁判所の判断のおかしさ」

などが挙げられると思いますが、やはり私はその前提となっている「家族が責任を負わなければならない」という社会のスタンダードが問題だと思いました。

精神障害者の方に関しても、かつて保護義務者として家族が位置付けられ、そのご本人の行動を規制するように位置付けられていました。家族にとってはとても過重な負担でしたが、それが同じように裁判所の判断やJRの判断につながっているのではないかと思います。

これは家族にとっても負担ですし、また本人にとっても過剰な拘束がされてしまうために二次的な被害が生じます。

今回の講義を聞いて社会のスタンダード「家族が責任を負わなければならない」に縛られた社会の圧力の重さを改めて感じさせられます。

これは相当根の深いものであり、法曹とジャーナリズムの連携が必要だと思いました。

そして、これに立ち向かった方々に心から敬意を表します。

素晴らしい講義をありがとうございました。